

八戸

人口減少進む地方 企業どう生き残る

八戸学院大がセミナー

八戸学院地域連携研究センターは8日、八戸市の八戸グランドホテルで「減りゆく人口と働き方改革」企業経営の行く末」と題したセミナーを開いた。写真。県内の企業や自治体の担当者約50人が参加し、少子高齢化で人口減少が進む地方で有効な企業モデルなどについて理解を深めた。セミナーは市制施行90周



年記念事業の一環で開催。

講師は、同センター客員教授で税理士法人MSAパートナーズ専務執行役員・淡路俊彦氏と、七十七リサーチ&コンサルティングの佐伯克志氏が務めた。

淡路氏は地方での企業の経営環境について「都市部への人口集中が進み（地方から）人の流出を止めるのは難しい」と指摘。地域の付加価値や生産性を高めるために「社会全体の価値や労働資源などの前提条件を見直す必要がある」と述べた。

佐伯氏は働き方改革時代では「企業は競争に勝つことと、社会的使命や価値観の追求が両立した『強く、よい会社』が求められる」と主張。人材などの経営資源をそのような会社に集中することで資源を有効利用できる」と提言した。

（高松拓輝）